

# ■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京大学

後期 日程

科目

総合科目Ⅲ

## 総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	100点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

### 〈総論〉

2問の出題形式は昨年と同じだが、単純な要約問題はなくなり、第1問の論述は1000字のままだが、第2問は1500字の論述一本になった。また、第1問は「歴史学」、第2問は「情報社会」がテーマであり、第1問は人文系、第2問は社会科学系だが、あまり類題のない問題であり、論点を確定するには柔軟な思考力と幅広い思考力と幅広い問題意識が必要である。

### 〈特記事項・トピックス〉

第1問は歴史学における「アナール学派」の評価という、「科学論」としても珍しい問題が出題された。

### 〈合格への学習対策〉

「社会・文化・科学」の3分野について、幅広い関心と問題意識をもつことが不可欠だ。持ち時間が短いので、論点を明確に絞り込み、自分の主張の根拠と、対立する考え方への評価だけは確りと書けるように、論文の授業を普段から受けることが唯一の対策である。

## 問題(課題文・資料文)分析

問題番号	内容・テーマ	出典(著者)・資料	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第1問	アナール派の歴史観	「フランスの歴史家アラン・コルバン氏に聞く」1998年3月17日朝日新聞	人々の日常生活から歴史の深層を探ろうとする歴史観について	標準
第2問	情報社会における世界経験のあり方について	市川浩『〈身〉の構造』	記号経験と直接経験の間を往き来し、その多重性を貫通する感覚の深化の重要性を主張。	やや難

## 設問分析

問題番号 設問番号	形式	字数	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第1問	問1 歴史的説明 (1)と(2)	各150~200字	・プロシア軍が村に侵入した事件 (1)1815年、(2)1870年に関するヨーロッパ規模の史実について説明する。	標準
	問2 論述	1000字	・アナール学派であるコルバンの「一切の痕跡を残さずに死んでいった普通の人々の個人性を与える」という試みについて、賛成または反対の立場から、具体的な理由をあげて論述する。  ・政治史や事件史中心の旧来の歴史学に対し、人々の日常生活から歴史の深層を探ろうとする試みをどう評価するのか、「メインストリームの社会史・歴史学」の意義と限界についての論述が中心になる。つまり「歴史」とは何かへの考察が必要だ。	やや難

## ■ 2009年度 入試問題分析シート ■

問題番号 設問番号	形 式	字 数	設問内容 (特徴・解答上のポイントなど)	設問の レベル
第2問	論述	1500字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著者は主として文字記号を仲立ちとする情報経験が現実の代理ではなく現実そのものになったとする。そうであればあるほど直接経験が自然的身体に対してもつ「感覚の深化」が大切であり、記号体験と直接体験との間で往き来し、往来する感覚の拡張が必要だとする。</li> <li>・設問は、今日ではコンピュータが日常化し、仮想的なコミュニケーションが肥大化し、問題が生じている。この情報社会における世界経験のあり方について、上記の著者の問題意識と現在の状況を対比させて、論述する。直接経験とメディア記号体験とを往来する感覚の拡張に成功できているのか、メディア技術の発達はそれを可能にしているかなどの論点についての自説を展開が求められる。</li> </ul>	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。